

2023 年度課題研究会活動成果報告書

課題研究会名：医療ヘルスケアのサイバーセキュリティ対策と情報共有
(ISAC：Information Sharing and Analysis Center) のあり方研究会

設置期間：2022 年 4 月から 2024 年 3 月

代表幹事の氏名・所属：近藤博史・協立記念病院

幹事の氏名・所属：長谷川高志・日本遠隔医療協会

活動成果の概要：

はじめに、近藤が国立大学病院医療情報部長会会長（2018 年 4 月から 2020 年 3 月）だったことから 2020 年夏から厚生労働省医政局からのコンタクトがあり、世界的な ISAC (Information Security Analysis and) 構築の動きの中、日本では金融系、電力系などの形成があるが、日本の医療系の組織形成のために協力を依頼された。このため、当時の部長会会長の宇宿先生と相談し、国立大学病院医療情報部長会に担当者を決めた。具体的には日本医療情報学会と、会長をしている日本遠隔医療学会でサイバーセキュリティをテーマにしたシンポジウムの企画をして、金融系、電力系の担当者にも講演を依頼し活動を始めた。このことにより 2020 年 9 月から厚生労働省の調査研究費をいただけるようにしていただいた。また、組織形成のために 2021 年度から日本医療情報学会の本研究会を申請し、認められた。2021 年の徳島県の半田病院のサイバー攻撃事例を受けて 2021 年度末から 2022 年度に予算の追加を得て全国の中小病院のネットワーク調査を行った。

厚生労働省のサイバーセキュリティに関する調査研究を行い、成果発表と情報収集を目的に日本遠隔医療学会学術大会、医療情報学連合大会、日本遠隔医療学会スプリングカンファレンスでシンポジウムを開催した。参加医療機関の一部にも個別の説明を行った。近藤は日本医学放射線学会の遠隔画像診断ガイドライン更新案作成に参加し、サイバーセキュリティ関連部分を担当した。第 21 回一般社団法人遠隔画像診断サービス連合会 (ATS) セミナー、日本透析医会の教育講演、大阪大学学友会の基調講演、東京都立病院機構の診療放射線技師研修会で講演し、これらの内容は関連の出版物等にて掲載されている。また、同時に組織化に向けて厚生省参事官室の指導のもと、日本の医療分野 ISAC として CISSMED を構築し、10 月の日本医療情報学連合大会にて広報、参加者の募集を行なった。これにより本事業の当初の目的を達成したので、2023 年度で本事業の終了とした。

*なお、名称を CISSMED としたのは、日本では既に「医療 ISAC」の名称は別組織が使

用しており、この名称にした。また、CISSMED はあくまでもシステム利用者の会であり、国内の中小医療機関の多くの利用者が参加し、活発に議論することを目的にしており、指導的立場の本研究会の会員に参加されていた先生方には一会員として側方支援を願うことにしている。

資料 1. 厚生労働行政推進調査事業費（医療分野の情報化の推進に伴う医療機関等におけるサイバーセキュリティ対策のあり方に関する調査研究（21IA2013） ¥104,318,000

活動成果の発表：

[雑誌論文] 計 8 件

- ① 近藤博史：サイバーセキュリティの遅れと医療 DX の遅れは同源です。、第 226 回私と医療、p.55、新医療 2024 年 2 月号
- ② 近藤博史：学会長講演 日本の医療 DX の遅れとサイバーセキュリティの遅れは同源です。ー現状と対策について、見える化から統合です。ー、pp.27-28、第 27 回日本遠隔医療学会学術大会プログラム・抄録集
- ③ 近藤博史：シンポジウム 3「医療機関のサイバーセキュリティに関する展望ー厚生労働省行政推進調査事業による病院サイバーセキュリティ調査研究」、pp.45-46、第 27 回日本遠隔医療学会学術大会プログラム・抄録集
- ④ 近藤博史：はじめに、p.111、287(2)、2023、医学のあゆみ
- ⑤ 近藤博史：総論：遠隔医療、オンライン診療の現況 医療 DX、技術基盤、セキュリティ、pp.112-120、287(2)、2023、医学のあゆみ
- ⑥ 近藤博史：特集 2 遠隔画像診断の最新動向と未来予測 序説、p.197、40(2)、2024、臨床画像
- ⑦ 近藤博史：特集 2 遠隔画像診断の最新動向と未来予測 医療 DX を勧める遠隔医療における画像診断、pp.198-208、40(2)、2024 臨床画像
- ⑧ Hiroshi Kondoh：Educational Lecture REL-1-1 Information Security of Medical Institutes、S239、The 83rd Annual Meeting of the Japan Radiological Society Abstracts

[学会発表] 計 6 件

- ① 日本遠隔医療学会学術大会 シンポジウム 3：サイバーセキュリティ・遠隔医療基盤検討分科会「医療機関のサイバーセキュリティに関する展望ー厚生労働行政推進調査事業による病院サイバーセキュリティ調査研究ー」
座長：近藤 博史（協立記念病院・特定非営利活動法人日本遠隔医療協会）
長谷川高志（特定非営利活動法人日本遠隔医療協会）
S3-1 医療機関のサイバーセキュリティに関する展望
ー厚生労働行政推進調査事業による病院サイバーセキュリティ調査研究ー
近藤 博史（協立記念病院／特定非営利活動法人日本遠隔医療協会）

- S3-2 調査を担当した経験 (1)
関原 弘樹 (株式会社インフォメーション・ディベロプメント)
- S3-3 調査を担当した経験 (2)
松村 亮一 (株式会社 SHIFT)
- S3-4 調査を担当した経験 (3)
川上 正春 (BEX Consulting 株式会社)
- S3-5 調査を担当した経験 (4)
高橋 道也 (株式会社ヘルスブリッジ)
- S3-6 調査を担当した経験 (5)
福重 秀文 (ステラジャパン株式会社)
- S3-7 調査を担当した経験 (6)
落合 一則 (セコム山陰株式会社)
- S3-8 調査をスーパーバイジングした経験
西村 元宏 (セコム山陰株式会社)
- S3-9 調査方式の構築経験と今後の展開の可能性
長谷川高志 (特定非営利活動法人日本遠隔医療協会)

指定発言

岡本 潤 (厚生労働省医政局／特定医薬品開発支援・医療情報担当参事官室)

② 医療情報学連合大会 共同企画 14「施設間データ統合の目的と課題－EHR のセキュリティと遠隔 ICU の目指すもの－ (日本遠隔医療学会)」

座長：近藤 博史 (協和会 協立記念病院)、長谷川 高志 (日本遠隔医療学会)

4-F-3-01 施設間データ統合の目的と課題－EHR と遠隔 ICU の目指すものとセキュリティ－

近藤 博史 (日本遠隔医療協会)

4-F-3-02 遠隔 ICU に必要なセキュリティとデータ利活用について

高木 俊介 (横浜市立大学附属病院)

4-F-3-03 EHR のセキュリティと遠隔 ICU の目指すもの－サイバーセキュリティへの医療としての社会的評価の検討－

長谷川高志 (日本遠隔医療協会)

4-F-3-04 日本における遠隔 ICU 普及のための道程

橋本 悟 (集中治療コラボレーションネットワーク)

③ 医療情報学連合大会 産学連携企画「みんなでつくるセキュリティの医療現場改革に向けて 情報共有体制の重要性」

座長 武田 理宏 (大阪大学)、並川 寛和 (保健医療福祉情報システム工業会 (JAHIS))

4-A-4-01 医療分野におけるサイバーセキュリティ対策の厚生労働省の取組について

新畑 寛也（厚生労働省 医政局 特定医薬品開発支援・医療情報担当参事官室）

4-A-4-02 医療情報技師の観点からの医療分野の ISAC の必要性

谷川 琢海（北海道科学大学）

4-A-4-03 医療分野における医療機関関係者・医療従事者を中心とした ISAC 設立に向けた検討

大谷 俊介（誠馨会千葉中央メディカルセンター）

4-A-4-04 ISAC 等で使用するサイバーセキュリティに関連する情報共有ツール SIGNAL に関して

洞田 慎一（JPCERT コーディネーションセンター）

④ 日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス 特別企画 I 「医療 DX の基盤となるサイバーセキュリティ技術の展望と実際」

座長 長谷川高志（日本遠隔医療協会）

講演 1 「サイバーセキュリティの基本は ISMS です。ウイルス検知は対策方法の一部です。」

近藤 博史（協立記念病院、日本遠隔医療協会）

講演 2 「医療機関におけるサイバーセキュリティ対策の実際」

西村 元宏（セコム山陰株式会社）

⑤ 医療情報学会春季学術大会 PB-38 厚生労働省の中小病院のサイバーセキュリティ調査研究から－https 接続、携帯デジタル通信の現状と対策－

近藤 博史（医療法人協和会協立記念病院）

⑥ 日本遠隔医療学会 学会長講演「日本の医療 DX の遅れとサイバーセキュリティの遅れは同源です。－現状と対策について、見える化から統合です。－」

座長：児玉 直樹（新潟医療福祉大学診療放射線学科／運動機能医科学研究所）

近藤 博史（協立記念病院）